

2025/06/04

腸内細菌創薬シンポジウム

「わが国における産官学連携による腸内細菌創薬の未来」を、主催：一般社団法人日本マイクロバイオーームコンソーシアム（以下 JMBC と表記）、共催メタジェンセラピューティクス株式会社で JSR 株式会社の Bioscience and informatics R&D center 内ホールにおいてオンラインとのハイブリッドで開催いたしました。

参加者はメディアも含め、現地参加 41 名、オンライン参加 69 名でした。

JMBC では、AMED の「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業」の一つである「マイクロバイオーーム制御による次世代治療技術開発」に研究代表機関の一つとして参加しているとともに 2025 年 1 月より、腸内細菌叢移植 (Fecal Microbiota Transplantation, 以下 FMT と表記) の社会実装推進のための FMT プロジェクトチームを立ち上げており、腸内細菌創薬を強力に推進しております。

本シンポジウムでは、腸内細菌創薬を推進する目的で、産学官それぞれのキープレイヤーである 3 機関の方々にご登壇いただき、これまでの活動内容や結果、海外の動向などを踏まえて未来の方向性についてご講演いただきました。



シンポジウム風景



寺内氏
(JMBC)

冒頭は、JMBC 運営委員長の寺内より開会にあたり腸内細菌創薬の動向や JMBC における活動状況をご紹介いただきました。

次に学からの発表として、国内における FMT の第一人者であり、潰瘍性大腸炎の FMT に関しては世界のトップランナーである順天堂大学腸内細菌療法リサーチセンター長の石川氏より、「腸内細菌療法リサーチセンター（Gut-Link Lab）- マイクロバイオーミサイエンスをもとに腸内細菌療法の実装化を目指して-」の演題で順天堂大学におけるこれまでの潰瘍性大腸炎に対する FMT 臨床研究やがん・パーキンソン病への展開や新たに設置されたリサーチセンターについてご講演いただきました。

続いて、官からの発表として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の栗林氏から「マイクロバイオーミ創薬に対する PMDA の取組み」との演題で、新たなモダリティである腸内細菌創薬の規制における取り組みについて、生菌製剤、FMT あるいはファージに関する取り組みについてご講演いただきました。

最後に、産からはメタジェンセラピューティクス株式会社代表取締役社長 CEO の中原氏より、「うんちでいのちを救える日に向けて」の演題で、FMT の実装化に向けたサプライチェーンの構築などについてご講演いただきました。



石川氏
(順天堂大学)

栗林氏
(PMDA)

中原氏
(メタジェン
セラピューティクス)

講演後の質疑応答でも活発な議論が行われ、大いに盛り上がりました。また、本シンポジウム後にはメタジェンセラピューティクス社の FMT 治験薬製造設備のお披露目もあり、関係者とともにメディアも多く参加し、腸内細菌創薬の社会実装に向けた力強い息吹を感じることができました。